

Title	オンライン授業に参加して
Author(s)	藤田, 尚子
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/81425
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

オンライン授業に参加して

大阪大学 CO デザインセンター 事務

藤田尚子

2020年の始まりとほぼ重なるようにコロナ渦が拡大、日常生活、仕事、学び、全てにおいて工夫を強いられる新しい生活の中で、大阪大学でも Zoom 等を使ったオンライン授業は一気に拡大しました。CO デザインセンターで教務系事務を担当させていただいている私も慌てて初心者向け勉強会に参加、事務同士の「打ち合わせ」の経験は少し踏んだものの、実際の「授業」という場での Zoom 経験がなく、先生方との会話も噛み合っているような、いないような、ぼんやりした状況になりました。アシストする側が無知のままでは仕事にならないと若干の焦りを感じ始めていたところ、林田先生にお声がけいただき、実際のオンライン授業を参観させていただくありがたい機会をいただきました。6月後半から7月末にかけて、合計3日(6限分)の授業を参観させていただきました。

この機会において、私は、大きく分けて2つの目線を持って参加させていただきました。1つ目は、実際の Zoom 授業がどう進められるかを知るための仕事目線、もう1つは一聴講者としての目線です。

まず、仕事目線での感想。Zoom 授業の形態についてです。

まず第一印象として、スムーズで特に違和感がなく「対面よりむしろ便利かもしれない」ということでした。会話で発生するオンライン独特の時差とその対応の難しさはあるものの、先生、ゲスト、学生さん、皆さん自然に対応されている印象でした。資料共有も、対面授業でプロジェクターに投影される資料より見やすく、より集中しやすいのではないかと感じました。これは学生さんのアンケートにも同意見があったと記憶しています。

もう1つ良い点として、これは仕事目線と聴講者目線のミックスになるのですが、ゲストの顔ぶれが非常に豪華になり得るということです。移動の必要がなく、ご自身の都合の良い場所からご参加いただけるので、企画をされる先生もより多くの「呼びたい方」にお声を掛け易くなります。移動時間の省略ということ言えば、受講生にとっても通学時間が不要に

なるわけで、その分をアルバイトや別の活動に活用できます。

一方でデメリットとしては、対面授業が減ることで、学生さんは友人との交流が少なくなり、夢のキャンパスライフを経験できないどころか、狭い学生用のアパートで孤独を強いられるケースもあるかと想像します。そういったマイナス面をどう逆手に取ることができるかが、学生さんにとっては勝負どころなのかもしれないと感じました。

また、オンラインでは、受講生が顔を見せないままの状態を受講せざるを得ない場合があります、これは対面とは大きく異なる部分かと思います。スピーカーの方々にとりましては、参加者の顔を見ながらお話しされる方がベターだと想像します。しかし顔を出したいか出たくないかではなく、テクニカルな事情で、顔出ししない＝静止画にしておくことで動画配信のスムーズさを助けることが多いことを考えると、受講生は発言時のみ顔を出すという形もやむを得ないと思います。

テクニカルな事情ということで言うと、オンライン授業は、個々の学生さんの端末のバージョン、受講する場所、住宅事情、インターネット環境など、抱える条件によって発生する悩みも微妙に違ってくると思います。それが、例えば、大学側が用意している Wi-Fi スポットを利用することで多少なりとも解決につながるのであれば、当センターにもそのような部屋を用意しているので、豊中の学生さんには是非とも活用いただきたいと、センターのスタッフとして強調させていただきます。

次に聴講者目線での感想です。この授業は、先ほども触れたオンラインのメリットを生かした授業でした。私が参観させていただいた限り、毎回3人以上の様々な世代やバックグラウンドを持つゲストの方々がご参加され、都度さまざまな視点からお話を伺うことができる大変贅沢なものでした。公衆衛生の専門家、通訳機器「ポケトーク」の開発、ドキュメンタリー制作、社会課題の解決に向けて繋ぐお仕事、日本が誇るモノづくり、企業の広報、知的創造・交流空間のプロデュース等、今携わっておられるお仕事も様々な上に、現職に至るまでに別の職業を経験された方もいらして、学生時代のご経験も含め、皆様の豊かなご経験談はそれぞれが全て興味深く、説得力があり、お人柄も伝わる大変楽しい授業でした。林田先生の教え子、またはプライベートでお知り合いということからか、かなりざっくばらんにお話しをしてくださった印象で、それもよかったです。

皆様バラバラの職業、なのにここで共通することは「言語スキルの活用、運用」「多文化

社会への理解」ということかと自分なりに整理しました。留学経験が豊富な方の留学時代のエピソードはバイタリティに溢れていて、若い学生さんには留学の意義が伝わりやすいものだったと思います。モノづくり企業を率いて世界展開されている方の海外でのコミュニケーションのお話もリアルでしたし、全体的に、外国語を学ぶことのゴールは流暢に話すことではないこと、外国語のスキルはあくまでもツールの1つでしかないが、そのツールは課題解決のために非常に便利で重要なものだということ、文脈を読み取ることの重要性、人としての熱量も重要なのではないか、などと感じるお話ばかりでした。このようなお話を学生時代に聴ける若い学生さんが非常に羨ましく、人生をやり直したい気持ちでいっぱいになりました。

私ごとにはなるのですが、実は昨年度から3年次編入で東京の通信制大学を受講し始め、私自身、現在50代半ばにして勤労学生の身分です。通信制ではあるものの、私個人は対面の方がモチベーションが上がるため、平均して月に1回程度東京に通い、スクーリングと言う形で頑張っていました。ところがコロナで授業が一旦ストップし、実はちょうど仕事との両立に疲れていたところだったこともあり、このままフェイドアウトしたい気持ち、少なくとも先延ばしにしたい気持ちでいっぱいでした。そんな状態のところにも林田先生から授業の参観のお誘いをいただきました。先ほども触れたように、皆様のご経験を拝聴しながら、このような授業を受講できる若い学生さんが羨ましく、自分も人生をやり直したい気持ちでいっぱいになりましたが、同時に、自分だって今からでもできることを目指すために大学編入したその初心を思い出し、やる気を取り戻しました。オンライン授業の利点をしっかり実感させていただいたその直後の8月から、私のスクーリングも全てオンラインで再開し、モチベーションを保ったまま現在に至っております。この参観が自分にとって大きなリセットポイントになったことは間違いなく、感謝の気持ちでいっぱいです。

Zoomを含めたオンライン授業は、このコロナ禍ではなくてはならないものとなりましたし、コロナ禍でなくとも、私のような社会人が隙間の時間で学ぼうとするならば最適のツールです。一方で、若い学生さんにとっては、先生や仲間、先輩や後輩との対面でのコミュニケーションも非常に重要な経験であることは疑いもなく、1日も早くコロナが収束し、対面とオンラインが同等の選択肢として選べるようになることが理想なのかなあと今は感じて

います。

改めまして、大変ありがたいお声かけをくださいました林田先生、ゲスト講師の皆様の有意義なお話、そしてこのご縁に心より感謝申し上げます。